

02-001

母親の子育て不安の実際と不適切な養育を改善する手段

桑田 弘美¹、押栗 泰代²、角田 響介¹、藤本 達矢³、白坂 真紀¹

¹滋賀医科大学 医学部 看護学科、
²NPO法人マイママセラピー、
³滋賀医科大学 医学部附属病院

【目的】

本研究の目的は、子育てをしている母親の子育て不安の実際と「虐待に陥るかもしれない」不適切な養育を改善する手段をどのように行っているのかを明らかにすることである。

【方法】

1. 研究デザイン…質的記述的研究2. 研究協力者…A市で開業している「お母さんと赤ちゃんのための保健室」に通う母親15名。3. データ収集方法…開業保健師から協力者を紹介して頂き、研究への同意が得られた協力者に対して、3名前後で形成されたグループにインタビューガイドを用いて半構成的面接を行い、録音した内容を起こした逐語録をデータとした。4. データ分析方法…逐語録を精読し、救急搬送時の体験に関する内容をコード化し、類似性に沿ってカテゴリー化した。データはメンバーチェックを行い、信頼性を高めた。5. 倫理的配慮…滋賀医科大学医学部倫理委員会へ研究計画書を提出し、承認された後、研究協力者に研究の内容と人権擁護等の内容について文書を用いて説明し、同意を得た。

【結果】

研究協力者の母親は、1人が3人、6人が2人、8人が1人の子どもを育てており、年齢は20代～40代で平均36.3歳であった。分析の結果、65サブカテゴリー、11カテゴリーが抽出された。子育てをしている母親は、[うまくいかない子育てに落胆]し、[子どもの発達上の課題に対応できず気落ち]し、[子育てに関する社会資源利用に不慣れ]なことも手伝って、[期待に答えられない子育てに疲弊]することがあった。そのため、心にゆとりがなくなり、子どもが表現する要求に適切に対応できず、ちょっとしたことが[気に障ると虐待しそうになる]という不適切な養育をしてしまうという経験をしていた。実際に手を挙げてしまうということもあった。そうすると、さらに自分を責めて、[期待に答えられない子育てに疲弊]するという悪循環に陥った。しかし、[夫にも子育てを任せ]ることができるようになると、[夫の育児で妻の負担が軽減]されることに気づき、夫とともに[子どもの順調な発育を願い]、《いつの時代も子育ては大変》だと[子育てを達観]するようになった。そして、[それぞれの家庭に合った子育て支援を希望]し、[子育てと仕事が両立できる社会を期待]していることが分かった。

【考察】

不適切な養育を改善するためには、夫が子育てに参加するという消極的な方法ではなく、[夫にも子育てを任せ]ることが重要であると考えていることが分かった。

02-002

幼児期のダウン症児を育てている母親の思い

伊藤 茂理¹、出野 慶子²

¹東邦大学 佐倉看護専門学校、
²東邦大学 看護学部

【目的】

ダウン症児の母親の心理状態は、出生後の告知や受容過程に焦点が当てられており、どのような思いをもちながら子どもを育てているかは明らかになっていない。そこで、幼児期のダウン症児を育てている母親の思いを明らかにし、看護支援の示唆を得ることを目的とした。

【方法】

研究デザインは質的記述的研究である。1～4歳のダウン症児をもつ母親を対象とし、ダウン症外来のある病院にて、インタビューガイドを用いて半構造化面接を実施した。内容は育児の喜びや楽しさ、不安や負担、育児におけるサポートなどである。分析は面接内容から逐語録を作成し、母親の育児に関する思いを抽出してコード化し、類似性・相違性に着目してカテゴリー化した。本研究は所属機関および研究協力施設の倫理審査委員会の承認（承認番号26014、2014-091）を得て実施した。

【結果】

30代～40代前半の母親8名から協力が得られ、子どもの年齢は1歳5か月～4歳10か月（男児6名、女児2名）であった。母親は子どもの発達が遅いこと、言葉が話さないこと、体重増加不良など【成長の遅れや将来に対する不安】をもったり、周囲の目が気になる、食事介助や抱っこなどで身体に負担がかかるなど【育児に伴う心身の辛さ】を感じていた。一方で子どもの笑顔に癒される、発達が実感できた喜び、人を思いやる行動への感動など【子どもの存在や発達に対する喜び】を抱いていた。また、育児における夫の理解やサポート、同じ境遇の母親からの励ましなど【家族や周囲の理解とサポートへの感謝】や【専門職のサポートへの感謝】をしており、それらが【前向きな育児への転換】につながっていた。

【考察】

育児は母親の肯定的感情が基底をなしており、否定的感情が肯定的感情を上回ると育児不安が顕著になる。母親の肯定的感情を高めるためには、粗大運動のようにわかりやすい発達状況だけではなく、人への気遣いなどの情緒面の発達や、遅延する表出言語よりも理解言語の発達に着目できるように支援することが重要である。また、母親の気持ちを前向きに転換するには、夫の情緒的なサポートや、ピアサポートが影響することが考えられ、同じ境遇の母親から体験談を聞いたり、気持ちを共有できる機会を意図的につくることが大切である。さらに、ダウン症の特徴から母親の身体に負担が生じることが多いため、外来受診時には母親の健康状態にも目を向ける必要性が示唆された。